

共有財産構築のためのパートナーシップと思い出に残るパフォーマンス

2017年10月31日 投稿者 Ryan Piurek

大学のコレクションは、あらゆる分野における学者や科学者にとって不可欠なツールです。学生にインスピレーションを与え、学習理解において重要な役割を担っています。それだけでなく、大学の枠を超えて視聴や研究にも使用されます。中には何世紀にもわたって所蔵されているコレクションもあり、唯一無二の価値をもつ資料もあります。常にそれにふさわしい評価をされているわけではありませんが、コレクションは研究機関における最も貴重なリソースの1つです。

インディアナ大学学長 Michael A. McRobbie氏
State of the University address 2017年10月10日

IU代表団が火曜日に東京のソニー本社を訪れ、同社で使われる技術や開発中の技術について活発で生産的な議論を行い、大学にとって最も重要な資産である知識を保護したり、より多く入手することの重要性を確認しました。

大学は25世紀以上前から存在し、それは以下の3つのミッションをもとに構築されてきました。

- 研究や革新から生まれる知識の創造。
- 教育や学習からにより知識を普及させること。
- 知識の保存。

長年、これらのミッションの担い手は、そのほとんどが図書館や博物館に限定されていました。しかし、現代のデジタルエイジにおいては、書籍や雑誌をはじめ、絵画、写真、版画、彫刻、音声や映像の録画、科学的データなどのコレクションだけでなく、知識さえもその保存に場所を必要としません。IU学長 Michael A. McRobbie氏が最近の演説で指摘したように、今や世界中の学生や学者がインターネット上で膨大な資料に即座にアクセス、共有、送信することができます。



U代表団メンバーとソニー東京本社の担当者。

IUでは長年にわたり、学術と研究の使命の一環として、教育的、文化的、歴史的に重要性を持ったコレクションを収集してきました。また、多くの方々から貴重なコレクションの寄贈を受けてきました。

(偶然にも、McRobbieとその同僚がソニーの担当者と会う準備をしていたとき、アメリカの伝説的女優グレン・クローズが、彼女の最も代表的な舞台や映画作品で使用された**貴重な衣装コレクション**を新設された**School of Art, Architecture + Design**に寄付しました。このコレクションは、演劇やデザイン、マーチャンダイジングなどのさまざまな分野の学びの場で使用され、IUの学生や教員にとってインスピレーションを与える存在となるでしょう。)

IUのコレクションは、同大学が歴史的に強みを持つ人文科学、芸術、音楽、社会科学、健康科学など幅広い分野の資料など多岐にわたっています。2009年に実施された総合的な調査によると、IUブルーミントンのキャンパスだけで実に50万点以上の音声や動画の記録と映画のリールが存在し、インディアナポリスキャンパスとその他の5つのキャンパスではさらに10万点以上のコレクションが存在することが分かりました。

デジタル保存における世界的リーダー

IUや主要なレガシーコレクションの保管者が直面している課題は、そのサイズや範囲が莫大な資料のデジタル保存を最適に管理し、それをあらゆる人ができるようにすることです。IUは幸いにも、ソニーグループ子会社のMemnon Archiving Servicesのように革新的な企業とのパートナーシップのおかげで、デジタル保存においては他者を一歩リードしています。

アメリカの映画ファンや学者間では、IUが最も多く、そして多様な映画コレクションを所蔵していることはよく知られています。IU-Memnonのコラボレーションにより、これらの映画の多くが視聴や研究用に保存されています。

IU-Memnonのパートナーシップは、毎年行われる大学の一般教書演説でMcRobbie氏がIUのMedia Digitization and Preservation Initiative(メディアデジタル保存イニシアチブ)作成を発表した2013年に遡ります。現在進行中のプロジェクトの目的は、IUの全キャンパスの重要な録音および映像をデジタル保存し、2020年に開催される200周年記念式典までにアクセス可能にすることです。IUは、デジタル保存の最適なソリューションを世界中で探した結果、Memnonをプロジェクトパートナーに選びました。(その後、2015年にソニーがMemnonを買収)Memnonでは産業規模のデジタル化プロセスにより、最大で1日600本の録画を処理することが可能です。

昨春には、IUブルーミントンのイノベーションセンターにあるメディアデジタル保存プロジェクトは当初のタイムライン予測を上回るペースで進んでおり、すでに次世代の学者や学生のために保存された録音や映像録画データは25万件に上ります。



ソニーのグループ会社であるMemnonのフィルムデジタル処理スキャナ。これにより、米国で最も多くの数と種類の映画を所蔵するIUのコレクションをリールからデジタル保存に切り替えることが可能に。

また、IUとMemnonのパートナーシップは**現在第2フェーズに入っており**、IUは大量のデジタル保存、所蔵、アクセスにおける世界的リーダーとしての地位を築きました。近年は他の大学や民間放送局、博物館などとコラボレーションを行い、数々の成功を収めています。

たとえば2016年には、イタリアのフィレンツェにあるウフィツィ美術館と協同で同館内にある古典ギリシャやローマ彫刻のコレクション全1,250点を3次元デジタル化することを発表しました。世界で最も古く、最も来館者数の多い美術館のひとつであるウフィツィ美術館とIUのVirtual World Heritage Laboratory(バーチャル・ワールドヘリテージ・ラボラトリー)プロジェクトでは、ウフィツィ彫刻の3Dモデルを高解像度で作成し、オンラインで自由に入手できるようになりました。これも、IU200周年までに完成する予定です。

本日、McRobbie氏はソニー本社で同社の幹部と面会し、IU-Sonyの関係を強化および今後の技術

協力の機会追求についての話し合いの場を持ちました。こうした技術協力により、IUでは授業内容の充実や学習成果の促進、教員や研究員の革新的な研究を支援することなどが可能となります。またMcRobbie氏は、IU初の工学プログラムであるintelligent systems engineering(インテリジェント・システム・エンジニアリング)に学位プログラムを設置するなど、新たな学科やアカデミック・イニシアチブを開設している同校の取り組みについて報告しました。同プログラムは、IUのSchool of Informatics, Computing and Engineering(情報科学、コンピュータ、工学科部)を通して提供され、IUが長年牽引してきた分野である技術の小型化やネットワーク化、モバイルテクノロジーに重点を置いた開発が行われています。

同会議には、McRobbie氏と共にIUのInformation Technology(情報科学部)副学長兼最高情報責任者(CIO)であるBrad Wheeler氏と、International Affairs(国際関係学部)副学部長で今回のミッションのオーガナイザー役を務めたLee Feinstein氏、前駐ポーランド米国大使でSchool of Global and International Studies学部長兼メディアデジタル保存イニシアチブのエグゼクティブ・ディレクターDennis Cromwell氏が同席し、生産的で活発な議論に貢献しました。

セッションでは、ソニーの担当者がIUの担当者に対し、ソニーの新技術がキャンパスでのよりダイナミックでな学習環境の実現にどのように貢献できるかという点について、見解を尋ねました。また、ソニーの最も革新的な市場技術の展示を見学し、新たなコラボレーションの可能性についての話し合いが行われました。IUとソニーのパートナーシップはこれまでも革新的で生産的な関係の構築につながっていますが、今後さらなる将来性が期待されます。

歴史的イベントは和やかな雰囲気の中で

火曜日の夜には、IU派遣団は著名なゲストと共に東京芸術劇場でIUにちなんだ特別演奏会に参加し、新たなインスピレーションを受けました。

IUの卒業生である世界的な指揮者Robert Ryker(ロバート・ライカー)氏は、東京シンフォニアの音楽監督およびインド国立フィルハーモニーの音楽監督を務めており、宗教改革500周年を記念してヨハネス・ブラームスのドイツ・レクイエムを演奏を行うなど輝かしい実績を残しています。また、オペラ歌手のJohann Schram Reed氏もIUのJacobs School of Music出身で、初めて日本でパフォーマンスを行いました。彼はアメリカ西海岸で多数のオペラコンサートに出演し、主役の1人に抜擢されるなど、高い評価を受けています。



(左から)IU学長Michael McRobbie氏、高円宮妃殿下、IU卒業生で世界的に有名な指揮者ロバート・ライカー氏

IU卒業生の両氏は、東京音楽大学シンフォニーオーケストラおよび合唱団、そして壮大な巨大パイプオルガンをバックに演奏を披露。バロックから始まり、モダン、インダストリアルとシフトし、パワフルで感情に訴える素晴らしいパフォーマンスを行いました。McRobbie氏やオーストリア駐日大使、ドイツ駐日大使、ローマ教皇、高円宮妃殿下などの要人を含む満席の観客席からは、彼らの素晴らしいパフォーマンスに称賛してスタンディングオベーションが送られました。

和やかな雰囲気で行われた感動的な同イベントは、その日のテーマである「貴重なパフォーマンスの保存」にふさわしい内容のものでした。